

巻 頭 言

## 歯 学 部 長 挨 拶

歯学部長 島 田 和 幸

鹿児島大学歯学部の創立の理念としては南九州地域における歯科医療人の育成がその大きな使命であり、また南九州地域に密着した歯科保健・治療内容の向上・維持が保証できる人材育成であります。その為に昨年に引き続き最重要課題として教育の充実に取り組んできました。

### (1) 臨床実習の改革

卒業生の臨床能力の担保にあたり高学年生においては診療参加型臨床実習の大改革を行ってまいりました。臨床各講座の先生方によるご理解と協力の基にようやくそのプログラムが始動しはじめることで改革が行われ始めています。また同時に全臨床系講座の協力の基に学生が自由に臨床実習時以外の時間帯でも自主的にトレーニング可能な場所の確保と設備なども現在着々と進めております。

### (2) 地域歯科医療，離島診療実習

鹿児島県歯科医師会の協力の基での離島巡回診療実習に学生の参加をこれまで行ってまいりましたが、必ずしも実習希望者全員が参加可能であったのではなく、状況によれば参加できない学生もいました。そこで今年度からは医学部が行っている離島巡回実習に歯学部学生も参加できる様なシステム作りの検討に入ります。鹿児島大学歯学部でのミッションの一つとして、鹿児島県は多くの離島や無医村を有している地域でもあり、このような実習を行い地域医療に貢献できる歯科医師の養成が地方国立大学としての大きな使命の一つであるからです。その為にも今後は参加指導する教員への再教育、及び学生達に対しての経済的な整備と実習内容の更なる充実を図る方策の検討に入りました。

### (3) 歯学部としての研究に関して

大学の使命は教育と国際的な研究や地域に根ざし

た特色ある研究の充実が求められているところです。歯学部は大学院化され、医歯学総合研究科の中に含まれますが、歯学部として歯科医療に貢献できる先端的かつ学際的な研究及び海外の大学との共同研究にも取り込める様な環境，設備の充実を図る様に努力しております。

### (4) 国際交流

昨年度はインドネシアのエアランガ大学との部局間協定を結び、両国との教員交流も行いました。また近々モンゴル国のモンゴル健康科学大学歯学部とも部局間協定を結ぶ予定となっております。今後、学生及び教員が海外の大学との交流をより活発に行なえる様な環境も整いつつあるのが現状です。

以上、昨年度から今年度にかけて私が学部長として就任している期間での経過報告です。

“鹿児島大学歯学部紀要”も既に第34巻になりますがこの様な大学紀要が単に歯学部紀要として終わるのではなく、今後は国際協定大学や、海外の歯科・歯学部の大学でも読まれる様な欧文誌に発展していけると私自身は考えております。今後も本誌を通して鹿児島大学歯学部の教育研究等の発信窓口となることを心より希望いたします。